

2011年4月28日
東京ガス株式会社

2011年3月期 本決算説明会

主なQ & A

Q 1 : 豊洲用地売却益という特別利益を計上しているが、その特別利益を含め、連結当期純利益の6割を株主に還元する方針を維持した背景について。

A 1 : 豊洲用地売却益については、不動産事業への再投資も含めて検討してきたが、都市ガス事業・不動産事業を問わず、都市ガスを製造・供給・販売する事業運営において発生した利益であることも事実。その点に鑑み、株主の皆様方へ特別利益を含め、連結当期純利益の6割を還元する方針を維持した。

Q 2 : 今夏の電力需給逼迫への懸念を考慮すると、コージェネレーションシステムへの期待が高まると考えるが、現状の引き合い等はいかがか。

A 2 : コージェネレーションシステムについては、既に設置されているお客さまの稼働増や、新たに設置を希望されるお客さまの引き合いも出てきている。東日本大震災の復興に係る補正予算案でも、自家発電設備の新增設等に100億円の補助が充てられており、追い風となると考えている。ただし、分散型電源へのシフトがどのような規模・スケジュールで進んでいくのかについては、まだ確たる見通しを持ちかねている。いずれにせよ、当社としては引き続き分散型電源の価値を訴え、真摯に取り組を進めていく。

Q 3 : 日本初のCBM (Coal-Bed Methane) プロジェクトへの投資を決めるなど海外事業を積極的に進めているが、今後、海外事業にさらに力を入れて取り組んでいくのか。

A 3 : これまでも申し上げているように、魅力的なプロジェクトであれば、積極的に取り組みを進めていく。ご指摘の上流事業に加え、これまでも海外の発電事業やガス供給事業に取り組んできており、例えばマレーシアでガス供給を営むガスマレーシアは、東京ガスへ大いに利益貢献している。今後も同様に上流・海外事業を積極的に進め、東京ガスへの新たな利益貢献を実現していきたい。